

海運の重要性を学校教育の場で
～新潟にて海事施設の見学会を開催～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者や児童生徒を対象に、商船・海事施設の見学会、授業協力、資料提供等を実施しております。

今般、北陸信越海事広報協会等とともに、新潟国際貿易ターミナルおよび日本海エル・エヌ・ジーの協力を得て、10 月 15 日（水）に新潟市立有明台小学校の 5 年生 31 名を対象にコンテナターミナルおよび LNG 新潟基地の見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【見学会概要】

児童たちはコンテナターミナルにおいて、①会議室で海運の役割を学んだ後、②管理棟屋上からターミナル全景を見学し、③バスで構内を巡り荷役作業や施設の様子を見学しました。

続いて、日本海エル・エヌ・ジーの LNG 新潟基地に移動し、担当者による説明のもと、④バス車内から基地構内を見学し、⑤会議室にて LNG 輸送の仕組みについて理解を深めました。

① 当協会から海運の役割を説明

日本は身の回りの多くの物を海外からの輸入に頼っており、日本にとって不可欠な海外との貿易量の 99%以上を海運が担っていることを説明しました。また、新潟港でのコンテナ貿易に触れながら、コンテナ船やコンテナで運ぶ荷物についても解説し、児童たちは真剣にメモを取りながら聞いていました。



講義の様子

説明後は児童から、「1 つのコンテナでどれくらいの量が運べるの?」「新潟港の 1 ヶ月の輸入量はどれくらいあるの?」「コンテナはペット等の生き物も運べるの?」など多くの質問があり、海運に興味を持ってくれた様子でした。

② 管理棟屋上からターミナル全景を見学



屋上からターミナルを見学

多くの児童にとっては、港やガントリークレーンを見るのが初めてのことであったため、荷役中のコンテナ船を見た児童たちは、多くのコンテナが綺麗に積まれていることに驚いている様子でした。「コンテナを 1 つ積むのに何分かかるの?」「ターミナルは最大で何個のコンテナを置けるの?」という質問や、「ガントリークレーンがキリンみたい」という感想が聞かれました。

③ バスでターミナル構内を見学

巨大なガントリークレーンでコンテナ船の荷役をしている迫力のある様子や、ストラドルキャリアがトレーラーにコンテナを積み卸す様子を間近で見るなど、普段立ち入ることができないエリアで貴重な経験をすることができました。また、温度調節が出来るリーファーコンテナや液体等を運ぶタンクコンテナなど様々な種類のコンテナを間近で見ることができました。



バス車内から、荷役作業中のガントリークレーンとコンテナ船を見学

④ バスで LNG 新潟基地内を見学

コンテナターミナル見学後は、LNG 新潟基地に向かい、車窓から巨大な LNG タンク等を見学しました。日頃何気なく利用している電気やガスの元となる LNG は、外国から船で輸入されていることを学びました。



バス車内から見学した LNG タンク

⑤ LNG 輸送の仕組みについて学習



模型を見ながら説明を聞く児童

最後に会議室で、天然ガスを冷却して液体にすることで体積を減らし効率的に多くのガスを LNG 船で輸送していることや、基地到着後に液体から気体のガスに戻す仕組みについて、模型も使いながら学びました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。